

## Support for **Woman Doctors** ～私からあなたへ～

奈良(旧姓 花房)藍子 先生【岡山県 29 期】

秋田厚生医療センター(糖尿病代謝内科)  
長男 5 歳、次男 2 歳



私は 2006 年 3 月自治医大を卒業し、卒業時に同級生と結婚しました。初期研修は各出身県でおこない、2008 年 4 月から 3 年間秋田県で勤務、2011 年 4 月から 3 ヶ月間自治医大病院で後期研修を行い、8 月に長男を出産、2012 年 3 月まで子育てに専念しました。

2012 年 4 月から岡山県の地域の病院で 3 年間勤務。当直については子どもが 1 歳をすぎてからも免除していただき、日直のみとさせてもらいました。この間の 2014 年 7 月次男を出産。この際は産休のみ取得し 9 月には復帰。地域の保育園で 3 ヶ月の子を預かってくれるところはなく、実母に全面的にお願いしていました。母には本当に感謝しかありません。次男出産後は部分休業を利用し、早めに終業できるようにさせていただきました。この制度が利用できたのは、後期研修中に地推課の方から公務員の場合の子育て支援制度について教えていただいていたおかげです。ありがとうございました。

次男出産時に利用していなかった育児休業を 2015 年 4 月から 6 ヶ月頂いた後、10 月から半年間、残っていた後期研修分を岡山大学病院で行い、義務年限を終了しました。育休中、幼稚園でのママ友との交流や夏休み中子どもが家にずっといる生活を経験し、専業主婦の大変さを知りました。

2016 年 4 月からは、秋田厚生医療センター糖尿病代謝内科で外来メインで勤務しています。甲状腺疾患は女性の患者さんが多いです、妊娠糖尿病や 1 型糖尿病の女性患者さん(月経前後でインスリンの必要量がかわってきます)など、せっかく“女医さん”となり、子どもを出産した経験を生かして、患者さん(特に女性)を支えていけたらなと思って日々奮闘中です。糖尿病専門医を取得したいと思っていますが、まだ認定施設での勤務期間が足りず、いつになることやら…。

“女医さん”と言われるとき、みなさんはどう感じますか？

私は、医師になって 5 年目くらいまでは患者さんに「“女医さん”かあ、若い先生だなあ」と言われると、「頼りなさそうだなあ、心配だなあ」と心の声が聞こえてくるようで、悔しい気持ちになることがありました。11 年目になった今は“若い”なんて言われると「そうですか？」とニヤついてしまうくらいの精神力がついてきました(笑)。

“女医さん”を良くとらえ、話しやすいと言ってくれる患者さんもいます。たわいもない話の中に、患者さんの真の症状が隠れていることがあるので、話しやすい雰囲気は私は大切にしています。これは、病院スタッフとのコミュニケーションを良好に保つのに重要です。ですから、笑顔を忘れず(たいていマスクをしているのでわからないかもしれませんが…)、だれにでも平等におだやかに対応し、「ありがとう」「すみません」の気持ちを言葉で伝えるよう心掛けています。

義務中、他大学の先生から「義務があつて大変だね～」と言われることがありました。確かに専門医取得が遅くなるなど不利な点もありますが、地域での医療経験(様々な疾患を持つ患者さんを診る、往診、診療所や療養病床のある小規模の病院での診療など)は現在の診療にとっても役立っています。また、自治医大での医学教育は本当に恵まれていたのだと感じています。そこで培われた経験・精神を生かせるかは自分次第です。これまでに勉強したことや経験したことで、ムダなことはひとつもありません。

仕事も子育ても中途半端で、家族や職場に申し訳ない気持ちになることも多々ありますが、感謝の気持ちを忘れず、たくさん学び、しっかり遊んで、ママさん女医ライフを楽しみたいと思っています。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『みんなちがってそれがいい♪』

全ての経験がこれからの自分につながる☆』